Chuō-ku Kōdanren Information

中央区工団連会報

発 行／中央区工業団体連合会　〒104-8404 東京都中央区築地 1-1-1（中央区役所内）　TEL. 03-3546-6515
FAX. 03-3546-6526

No.26　2010年3月発行

特集／不況に立ち向う〝ドスコイ企業〟探訪！

▲中央区では、うるおいのあるまちづくりや地球温暖化防止のために公共施設の緑化を推進。
平成21年度には区役所本庁舎の壁面一部も緑化された。

平成21年度 中央区中小企業工業関係者表彰式

中央区と工団連による平成21年度表彰式は、平成22年2月18日(木) 銀座ブロッサム・マーガレットにおいて厳粛なうちにも和やかに執り行われました。
栄えある受賞は、永年事業主(就任20年以上) 5名。従業員(勤続20年以上) 14名、(勤続10 ～ 19年) 13名。
表彰式のあと、区長はじめ来賓の皆さんを囲んで記念撮影をし、隣接の会場で祝賀パーティーが開かれました。

授賞式の様子▶

目次

■ 平成21年度中央区中小企業工業関係者表彰式 ▶P.2
■ 第16回中央区産業文化展（へそ展）キックオフ ▶P.3
■ 特集／“ドスコイ企業”探訪 不況に立ち向う『技』と『意識』 ▶P.4－9
■ ハイテクランチセミナー
〔平成21年度5回～10回の内容あらましと、平成22年度のテーマと講師（予定）〕 ▶P.10－13
■ 平成21年10月～平成22年3月の観光協会の活動 ▶P.13
■ 工団連の動き ▶P.14
■ 商工業融資制度 ▶P.15
■ 工団連ホームページ ▶表紙Ⅳ

第16回中央区産業文化展（へそ展）キックオフ

第16回中央区産業文化展（へそ展）については、昨年11月19日に各支部団体から選出された地域産業活性化検討小委員会による打合せ会が開かれ、概ね次のような実施方針が検討されました。これにより先ず3月26日に業者による企画提案を審議決定のうえ、来る4月16日開催予定の第1回実行委員会での議決を経ていよいよ一斉に準備開始です。

1）趣旨(案)

中央区内における主要な産業について、その活発な事業活動の様子を広く区民、都民および関係業界に紹介し、区内産業の振興・発展に寄与するとともに、未来を担う青少年に対する地域産業教育に資することを目的として開催する。

2）主催

中央区・中央区産業文化展実行委員会

3）実施期間と会場

平成22年10月31日（日）～11 月3日（水・祝日）の4日間、会場はいつもの「晴海トリトンスクエア・グランドロビー」

4）テーマ

「モノづくりと環境」（仮）

5）設営業者

区内のイベント業者3社のコンペテーションとする。なお、各団体で実行委員を選出し委員会立ち上げの準備をする。

中央の丸い建物が会場▶

▲グランドロビー

▲トリトンスクエアの中庭

特集

不況に立ち向う『技』と『意識』

この不況下に〝ドスコイ〟とばかり元気に立ち向っている企業会員を訪問しました！

〝ドスコイ企業〟探訪！

わが中央区工団連の各会員はそれぞれ復興を模索して懸命の活動を展開しています。やはりIT（情報通信）の分野とのコラボがカギのようですが、別の角度から見ると〝ドスコイ企業〟の「強さ」の原点は、現代社会の実に多種多様な注文・要望にしっかりと応える「技能」と「意識」にあると確信しました。

「技能」には特化した伝統の技を含み、「意識」の内にはその先を見越した設備投資や研究が光っています。

今回訪問した３社はそれぞれ違う業種で当然特色も異なりますが、共通するのは顧客目線で、“何度も利用したい会社”であるということです。ただし、メーカーではなく、いわば“職方”なので作っている品物の用途や得意先、さらに価格や売上げ金額など興味ある部分はやはり公開できません。悪しからずご了承ください。（文責：記者／原田啓治）

印刷からフィルムが消え、紙媒体への需要も激減
変革する印刷業界の事例2つ

中央区の地域産業の80％前後は印刷出版産業で占め、その成果物は図書カタログポスター等の印刷物です。しかし近年、まるで津波のようなスピードでデジタル化の波が押し寄せ、デザイン制作から製版～印刷までのすべての機器とその制御をコンピュータで処理するように流れが決まってしまいました。

さらにIP（情報通信）の普及発達で、媒体が紙から電子へと移り、インターネットに乗って「必要とする情報が必要とする所へ着実に伝わる」ようになったので、ついに、高速・大量印刷の時代は終りを告げ、印刷文化は有史以来の大変革期を迎えるところとなったのです。

しかし、デジタルのお陰で今まで出来なかったカラーの調整や安定化が数値制御できるようになり、また必要な枚数だけ高品位で複写物が生産でき、それも紙以外の媒体（布とかプラスチック、木材も）への印刷が行われています。

次にご紹介する❶東京印刷工業組合／京橋支部の（株）セントラルプロフィックスさんは印刷の前段階、プリプレスといって画像処理や製版データを作る事業所です。続いて❷東京グラフィックス中央支部の（株）山王プリントさんはいわゆる軽印刷の仲間です。デジタルプリンター（オンデマンド機）ほかフットワークのよい機器類を装備して、小ロットのドキュメント類、小冊子何でも対応しています。

❶東印工組/京橋支部

デジタル画像処理／製版

株式会社
セントラルプロフィックス
代表取締役　田畠義之

主軸は高品位プロセス
「選ばれ続けるために…」

株式会社セントラルプロフィックスは、印刷業界の老舗（株）久榮社の製版部門からスタートした「写真製版業者」として60年の実績をもち、今日では、さらに進んだ技術と設備を駆使して「デジタル画像の処理～印刷まで」を主な業務としている。

従業員100名、創業来最も多い人数だという。

本社工場は、“印刷集積地域”である「中央区湊」に位置し、周辺は、以前から「電通」をはじめ広告代理店やデザインプロダクションが多く、ポスターやカタログ・パンフレットあるいは図書などあらゆる印刷物が制作～出版されている。製版会社は、その印刷の元になる“版”（主にオフセット印刷用）の「製版フィルムを作りそれを元に試し刷り後に必要な修正を施したフィルムを印刷会社に納める」のが一般的な業務であった。しかし、電子化の発達で、ここ4～5年の間にフィルムは不要になり、刷版も印刷工場でのデジタルダイレクト出力化が進んでいるので、製版会社はひたすらコンピューター上で「正確で安定したデジタルデータ」を作り、何度か試し刷り（校正刷り）をしたうえでその「完成データ」を印刷会社に納めるというかたちが主流となっている。

セントラル社の田畠社長は、早い

田畠義之社長

時期にこの変化を好機ととらえてここ10年、積極的にデジタル環境を構築し、技術・設備両面で、他との差別化を図ってきた。…と一言で云っ

DTPフロアー

ても、これは容易なことではない。この、アナログからデジタルへの移行で、従来のヒト（技術職人）やモノ（機械設備）を全面的に組織替えしたのである。社是（スローガン）は顧客に「選ばれ続けるために…」。

先端の機器がずらり。…工場は24時間稼動

また一方、インターネットの普及で紙媒体への印刷需要が大幅に減少、一般的な「大量複写」の時代は終ったかにみられている。しかし“絶対需要”として無くなることのない印刷物はさらに高度化していて、例えば大手化粧品メーカーの凝ったつくりのカタログ、著名レジャーランドの駅張り大型ポスター（B0判/約1×1.5m）、あるいは色にシビアでスピードを求められる通販カタログなどである。いずれも高度の品質とスピードプラス低コストが条件。これらを制作出来るプリプレス業者（画像の処理・製版）は、そう多くない。

セントラル社は設備・技術ノウハウ・人材・立地などトータルで優れていなければ生き残れないと、この高いハードルをクリアーし今、「顧客の利便継続のため」生産現場は24時間稼動である。

中央区湊の一角にあるセントラルプロフィックスの本社工場は数年前に7階建てビルを耐震補強した。次々に導入される最新の設備と作業環境を安全なものとするためで、デザイン→画像の処理→製版→校正→印刷のすべてを自社内に集中し、内製化することで一元管理による安定した高品質、納期短縮およびコストの低減に繋げている。

明るい各階フロアーではコンピューターを駆使して文字組版などのレイアウト処理作業（DTP課）や大型ポスターの画像処理（グラフィック課）をしているのは当然の光景だが、隣接するいくつかの、ほとんど無人のフロアーに、大型の色調確認用出力機（プルーフ）や遠隔操作の刷版出力機（プレートセッター）、また修正箇所検査やデジタルデータ検査装置ほか特別な目的のための機器がずらりとスタンバイしている。これらはすべて一元管理されていて、オリジナルの営業支援・工程管理システムと連動している。大切なデータを保管するディスクは実に「テラ・バイト級」が十数台…。

大型の印刷機（四六全判）をそのまま校正機に…しかも2台

本来カラー印刷では、「カラーマッチング」といって色調の統一が命題となっている。実は、同じデータでも作業しているPCのモニター画面／内校正用カラープリント／色校正／そして本機での印刷と、それぞれの工程で色調が微妙に違うのでトラブルが起きやすい。

セントラル社では豊富なカラー・ノウハウをもとに、極めて高度な仕組みと機器を投入して、全工程あらゆる段階での色調を各種印刷基準色

“印刷発祥の地”の誇り
東京都印刷工業組合京橋支部
支部長　羽生　直
会員数 141　☎03-3552-1855

“先進の情報文化”の担い手
東京都印刷工業組合日本橋支部
支部長　斎木政宏
会員数 40　☎03-5542-2121

“組合結成１００年”集積のパワー
東京都製本工業組合京橋支部
支部長　井上貴司
会員数 74　☎03-3551-3783

四六全判・5色印刷機

に統一できる高度な管理体制を作った。「カラーマネジメント・システム」の構築である。

カラー製版のデータは修正・補正して完成度を高めていくが、訂正するたびにプルーフ出力や平台校正機でプリントして顧客に確認を求める…すなわち「色校正」である、B全判といった大きいものの校正刷りが4度も5度も、あるときは6、7度にも及ぶので、現場は混雑して時間のロスが生まれる。カラーマネジメントで最終的に求められるものは印刷機での仕上がりだから、いっそ色校正を印刷本機でやろうと、江東区枝川の「豊洲工場」を開設して、大型のカ

豊洲工場

ラー印刷機（四六全判：4色と5色）を2台導入したのである。これは製版業界初といえる既成概念を超える決断だったが見事功を奏し、多枚数の校正出しから、小ロットなら同じ機械で印刷までしてしまう便利さで、高精度のカラーマッチングと超短納期に対応する、このサイズは製版業界では類を見ない付加価値の高いサービスである。

10年前社長に就任された田畠義之さんは「プリプレスの分野で差別化を図るには、長年蓄えた〔高品質のノウハウ〕にプラス〔最新の装備〕があって、幅広く対応出来るという〔業務領域の広さ〕プラス〔お客様の近くで24時間稼動〕という利便性、これらのシナジー（相乗効果）を含め、トータルで〝オンリー・ワン〟になることが目標なのです」と熱く語っておられた。さらに「低価格スパイラルを防ぐにはいつも次なる事、難しい事を追求していかなければなりません。弊社でしか出来ない、高品質・ハイスピードのしごとでお役立ちしたい」と。実は、すでにある技術開発が始まっている。…印刷最終段階でのアクシデント…「印刷物の汚れ・キズ・裏付き等」の不安を回避するための秘策がかたちになろうとしているが、これは専門分野のお話なので割愛する。

印刷の概念を変える 凸凹面へのカラー吹付け

田畠社長は4年前、お得意のデジタル画像処理を活用して、大型の平台型インクジェット・プリンターとNCルーター（立体彫刻機）を連携させた商品を開発。木材とかプラスチックなどに彫刻～印刷し、独創的なサインディスプレイの制作を開始した。例えば、写真を油絵調にデジタル変換して、生地の目のある布（キャンバス）にUVインク（紫外線硬化）で分厚く印刷し「デジタル油絵」として商品化した。また切り文字や

Dアートのショールーム

NCルーター

浮き彫りの模様といった半立体を切削造形し、それに吹付け印刷することで製品の幅がぐんと広がり、透明アクリルや木材を活用してステンドグラスや展示会用に、また店舗の看板やムードある内装壁材としても採用される様になり、引き合いが増えてきている。

「…この3年間、試行錯誤の連続で、いつ“勇気ある撤退”を叫ぼうかと思いましたが、昨今ようやく独自性と品質が認められる様になり、お客様の間口が広がって、採算的にも黒字に転換し始めました。」と田畠社長。文字通り挑戦者の勝利の歩みである。

今年2月に新設された江東区枝川の「豊洲工場」は、1階部分が前出の大型印刷機ほか重量機器群が配置され、1×2m位の板を置いて切り文字や浮き掘りができるNCルーターやUV（紫外線硬化）インクジェット・プリンター（ともに平台）は2階に広いスペースをとって稼動中であった。

伝統の技能、いま華開く
東京都製本工業組合日本橋支部
支部長　丸山啓一
☎03-3666-2051
会員数　5

省エネ・イノベーションを展開
月　島　工　業　会
会　長　石井宏治
☎03-4455-2500
会員数　20

高品位テクノロジーの追求
月島金属工業協同組合
代表理事　竹林聡明
☎03-3641-7691
会員数　4

❷東京グラフィックス・中央支部

オンデマンド印刷／製本
株式会社
山王プリント
代表取締役　永澤明夫

山王プリントの仲間業者 東京グラフィックスとは

山王プリントさんが加盟している（社）東京グラフィックサービス工業会というのは、平成6年（'94）に業界CIで「グラフィックサービス」と変えるまでは「軽印刷工業会」だった。呼称のとおり、役所や学校、また一般会社の日常で使われる文書類、資料

永澤明夫社長

の印刷、名刺封筒といった小口のものを得意としてきた。モノクロ印刷が主力なので機械等装備も小型軽量従ってフットワークがよく、社会のあらゆるシーンで活躍してきた。

バブル崩壊以後、コンピューターとインターネットを味方に情報通信の波を取込んで、今や「情報処理業」として躍進している。ポリシーは"ワンソース：マルチユース"つまり、情報の素材をいろいろに加工する。例えば、一つの宣伝情報を、チラシ印刷はもとより「誌面広告」にも「のぼり旗や横断幕」にも、インターネットの「ホームページ」果ては「ノベルティ・グッズ」にも加工して差し上げる、というもの。ここにも持ち前の？フットワークと仲間業者の連携がうかがえる。

中綴じの頁ものが オンデマンド全自動で

この会社は、軽オフセット印刷にかけては50年以上の事業実績があるが、近年、カラーで少量しかも特急という注文に対応していわゆる「オンデマンドプリンター」を導入したところ仲間業者の注目を集め、これに依存する仕事が増えたという。

オンデマンド機とは、「必要なものを、必要な時に、必要数量だけ」プリントしてくれる効率的なデジタル出力装置であって、印刷機ではない。しかしその精度、カラー品質は優れており、原稿となる材料もユーザーが日常使用しているパソコンで作られたものでよい。これを山王プリント社に送信すると、ベテランオペレーターがデータ処理して即出力となる。

また最近モノクロ・ページものを、全自動で製本までしてしまうオンデマンドの新機種を導入した。少し具体的に例をあげると、A4判で100頁の場合（A3判両面刷りで25枚）を、1枚ずつを印刷して折り重ね、針金で中綴じし、綴じ以外の3方を化粧裁ちして1冊ずつ排出する。その間10秒以内。その他カラー印刷物の差し込みや表紙の特化も出来るという優れもの。これで企業内のドキュメント（報告書、資料など）や、文集の自費出版など、短時間でリーズナブルな費用で提供できるのでは、と永澤社長は期待しているようだ。

オンデマンド印刷機：IMプレス1135

社内の様子

地の利と、使い勝手の 良い内製機器がずらり…

山王プリント社は正しく"情報データの活用拠点"であり、カラーオンデマンド2機を始め、時間短縮に威力を発揮する加工生産の機材がずらり揃っている。同社は築地交差点近く、京橋郵便局の真裏に位置しているが、この立地の良さとビルの1～2階、それぞれ140㎡位の広いフロアーに大小のオフセット印刷機ほか、刷版・丁合・製本・断裁機などあらゆる内製用機器がところ狭しと配置されている。

永澤社長は『うちは"仲間仕事"を軸足に置いてどんな小ロット・短納期にも対応できるよう設備の運用に気を配っています。それと、原稿の入稿方法については、お客様のPC環境・ソフト等に合わせるべく万全の体勢を執っています。』と極めて真摯なコメントであった。

伝統の日本文化を育てる
日本橋産業協会
会　長　小川浩一
会員数 35　☎03-3668-2193

"グラフィック・サービス"宣言
（社）東京グラフィックサービス工業会 中央支部
支部長　早坂　淳
会員数 31　☎03-3242-0191

美しい町並、強い町づくりを
特定非営利活動法人
地域の防災と町づくりを研究する会
理事長　吉田外喜雄
会員数 25　☎03-5651-5621

「伝統守りながら革新」が合い言葉
限りなく多様化するお客様の要望に応える

❸日本橋産業協会会員

刷毛ブラシ製造総発売元
株式会社江戸屋
代表取締役　濱田捷利

江戸家正面

小伝馬町交差点近く、江戸通りを南に入った旧日光街道沿いに「刷毛ブラシ」の株式会社江戸屋さんがある。大正時代の末に建てられ、戦災を免れているので今勧められて登録有形文化財の審査を受けている。昨年は町並み保存推奨の意味で国交省の方から「紺のれん」が贈られた。

その、歴史を感じるお店に入るとブラシ問屋さんらしく天井一面に各種製品の入った袋が鈴なり、床も同様で、社員の方々は商品と机の間を縫うようにきびきびと動いている。またひっきりなしに掛かってくる電話の応対とインターネットによる引き合い処理に大忙しのありさま…。「うちの社員は皆“パソコンの出来る番頭さん”なんですよ…私はダメだけど…」と濱田社長。

創業は292年前

「江戸屋」の創業は享保3年（1718）というから徳川吉宗が将軍となって3年目。「享保の改革」で大岡忠相などが活躍していた時代で、記録によると「江戸屋」のご先祖は「山城屋」という大名家御用商人のところへ経師刷毛などを納めていたというから、恐らく江戸城や大名家の障子、襖の張り替えや、表具師の手で掛け軸の表装などに用いられていただろうと想像できる。また7、8代目のご先祖は、江戸湾お台場の大砲の筒内を掃除する刷子を考案して納め、褒章をいただいたという。

刷毛の歴史は古く、1000年以上前に弓や矢に「うるし」を塗るためにキビの毛が使われたというし、藤原時代にも「白粉刷毛」が登場している。江戸時代になって用途別に多種類の刷毛が現れたが、中で表具用の刷毛に『江戸刷毛』の名が付けられている。昭和57年に東京都が指定した品目は、①経師刷毛、②染色刷毛、③人形刷毛、④うるし刷毛、⑤木版刷毛、⑥白粉刷毛、⑦塗装刷毛の7つ。そしてその伝統的な技術・技法や、数十段階の製造工程に驚かされる。

店内の様子

濱田捷利社長

手づくりのぬくもり

技とぬくもりを

江戸屋さんはこういった伝統の技を受継いできたが、先の太平洋戦争のときは国の施策による企業合同を経て、終戦後は復員したご尊父（現社長の）が亡くなられたので、その母親即ち祖母の花子様が社長となり、戦後の混乱期に女手ひとつで使用人、職方の面倒から会社経営のすべてを担われた逸話が残っている。

現社長の濱田捷利氏は昭和50年ごろ（第12代）社長に就任されているが、若い頃からの家業だからあらゆる体験を積み、特に日本の高度経済成長時代には、工業用ブラシの需要が急速に増大し、「どんな物に、どう使われるのかも分からずに、難しい指示に応えていろいろ作りました。うちは“モノ作りの道具”を作っている職方ですから…」と話される。

ときには直接の注文で、貴重な文化財の修復用刷毛ブラシの諮問をうけて考案したり、有名な役者さんの白粉刷毛のご用達も長年に及んでいるという。近年ではOA機器の台頭、美容服飾の新素材用など、全く新しい設計の製作相談がとみに増えているという。

工業用が6、伝統が4

一般の概念では、「ブラシ」といえば「汚れを払い落として綺麗にするもの」で身近なものでは髪・化粧用とか洋服、靴、ボディブラシ…また「刷

毛」は「塗って美しくする道具」例えば化粧刷毛、塗装用、染色用、のり刷毛などを思い浮かべる。

孫の手型ボディブラシ

濱田社長によると、近年ファッションの多様化で洋服ブラシなどが増えてきた。化粧用もいろいろなタッチが求められ、ヘアーブラシなども6条植え、いや7条、8条と微妙なこだわりが受注の幅を広げているという。これらはいわゆる伝統的手法で作られる“手仕事”の部分が多いので量産はできない。ところが、伝統の技を受継ぐものが次第に減っているのが現実だそうだ。

それに引換え、工業用は代表格の電動用金属ブラシが、機器製造に際して鉄板等の研磨、バリ取りに用いられ、清掃等のためのチャンネル型ローラーブラシをはじめ、部品工具の手入れ、パイプ内の洗浄。さらに大きいものでは列車や航空機の洗浄、大型倉庫の防塵用もあるわけで、自動車、機械産業の発展は限りないブラシ需要を生むことになり、業界の構造を一変させた。OA機器に組込む静電気除去ブラシやPC用の除塵刷毛なども今まで考えも及ばなかった…。しかしバブル崩壊後の長引く不況で近年ではやはりコストと開発競争、また節約思想で需要はぐんと冷え込んでいるという。

やはり伝統の強さ、工業用と伝統では数年前まで7対3の売上げ比率がいま6対4。…江戸屋の意識は、『伝統の技を未来に生かす』という会社のスローガンそのままに、技とぬくもりのある製品づくりが身上である。『伝統技術で“使い心地の良いもの”を作っておけば必ずリピートが来ます。好・不況であくせくしない！』と濱田社長は言い切った。

東印工組　日本橋支部
支部長　斎木政宏

発展する中国の印刷工場視察

東京都印刷工業組合日本橋支部は2009年9月、中央区に「(株)グリーンパックジャパン(2007年設立)」という日本法人(日本橋支部員)を持つ「グリーンパック実業有限公司」の深圳工場を視察。この会社は取引先に多くの日本上場企業を持ち、見学した時にも薄型テレビの取扱説明書やカメラのパケージが印刷されていた。

本社は香港にあり、敷地面積3万㎡の深圳工場には600人の従業員が働いている。現在、敷地内にさらに大きい新工場も建設中である。わざわざ香港から我々に会いに来て下さった本社社長(37歳)を含め、多くの若い人達が本当に一生懸命働いていた。

製品のクオリティの高さも、ショーウィンドウに並ぶカタログや

ポスター、緻密な絵がほどこされたパケージ等が証明していた。デザインからDTP編集等にも力を入れ、クライアントのニーズに応えようと努力しているという話だった。また、振動試験、落下試験、引帳試験などの信頼性テストを行い、自身の製品に完璧さを求めている。環境問題にも積極的に取り組み、いくつかの関連認証を取得している。

同じ中央区で印刷業を営む者として、情報交換をしながらお互いが向上する事を願い、再訪する事を約束して視察を終えた。

特定非営利活動法人 地域の防災と町づくりを研究する会
理事長　吉田外喜雄

事務所新設しました

NPO法人地域防災研究会はこの4月で3年目を迎え、これを飛躍の契機にしようと鋭意活動を進めています。事業報告としましては、

(1) 昨年11月には結果が出るはずだった国土交通省への「補助金制度へのエントリー(中央区公共建物内/校庭に芝生を育成させる事業)」については、政情の変化で見通し難となりました。

(2) 中央区との防災協定(地震前の防災対策)を締結進捗中です。

(3) NPO法人事務局はこれまで、三幸建設工業㈱内に置いていましたが、この度、独自の事務所を、

◆〒103-0014 中央区日本橋蛎殻町1-17-2／ライオンズマンション日本橋802／電話：03-5651-5621／FAX:03-5651-5622に開設しました。

● ● ●

なお、去る2月10日、ホテルマリナーズコートで新年会を開催(40名出席)。中央区から黒川課長、高橋課長のご挨拶、当会顧問である日本大学生産工学部准教授小松博士(建築)より挨拶と准教授鎌尾博士(土木)・准教授徐博士(土木)の紹介がありました。また、上田理事の乾杯音頭に始まり、山本相談役の中締めまで盛況のうちに進行し、最後に「今年は産業文化展(へそ展)が開催されます」し、みんなで不況を乗り越え頑張りましょう！　との掛け声でお開きとなりました。

ハイテクセンター・ランチセミナー

・平成22年度：1〜10回のテーマと講師予定

（注）講師肩書きの「EX」は、〈エクステンションセンター〉の略

22年度	開　催　日	講　　師	テーマ／タイトル
第①回	平成22年5月26日(水)	桐山　勝（早稲田大学 EX講師）	江戸商人たちが読んだ経営書 〜転換期の今、役に立つヒントが満載〜
第②回	6月23日(水)	河野　哲也（立教大学教授）	脳科学は我々を幸せにするか？ 〜脳科学ブームのとらえ方〜
第③回	7月28日(水)	佐藤　能丸（早稲田大学講師）	幕末の志士　吉田松陰
第④回	9月22日(水)	松平　美和子（早稲田大学 EX講師）	シルクロードの十字路、アフガニスタンの美術 〜行方不明の宝物再発見の最新情報〜
第⑤回	10月27日(水)	大西　良雄（経済ジャーナリスト）	(仮)日本経済の課題
第⑥回	11月24日(水)	噺家	落語実演
第⑦回	12月　8日(水)	笹原　宏之（早稲田大学教授）	(仮)漢字文化圏の中の日本語
第⑧回	平成23年1月26日(水)	野上　忠興（政治ジャーナリスト）	10政局裏表
第⑨回	2月23日(水)	小野　佳代（早稲田大学准教授）	(仮)仏像鑑賞入門
第⑩回	3月23日(水)	織田　啓成（早稲田大学 EX講師）	(仮)家庭でできるツボ療法

※7月のランチセミナーのみ18時からの開催になります。

第5回　世界同時不況とこれからの日本経済

2009年10月28日(水)12：00〜

講師
大西　良雄 氏
（経済ジャーナリスト）

第5回セミナーでは、08年9月に端を発する世界同時不況(リーマン・ショック)から一年を経た日本経済の現状と、政権奪取に成功した民主党の経済・財政政策の展望について伺った。

09年8月に発表された4－6月期の実質GDPは前期比を2．3%上回り、日本経済は僅かながら回復の兆しを見せ始めた。

しかし、08年同時期と直近の実質GDPを比較すると、約37兆円の減少であり、その内訳から、設備投資と純輸出の減少が不況の原因と考えられる。一方、民主党の経済政策は、内需拡大に向かっている。

財政政策については、来年度の概算要求は92兆円に膨らむも、21年度比では8兆円の歳出減となり、景気にはマイナスである。また、個人金融資産はおよそ1400兆円、対して地方債を含む国債発行残高は880兆円に上る。このまま政府債務残高が増大していけば、いずれ個人金融資産を上回り、最悪の場合、日本政府がIMFの管理下に置かれる可能性も想定される。

今後の経済政策の視点としては、これまでの「日本列島＝日本経済」という固定観念を捨て、経済の国境を引きなおすこと、すなわち「日本を含むアジア市場全体の成長を考える」という意識に軸足を移すことにこそあるとしてセミナーを締めくくった。

第６回　享保改革と公儀目安箱

2009年11月25日(水)12：00～

講師
谷口　眞子 氏
（早稲田大学講師）

第６回セミナーでは、大岡越前守忠相を中心に享保改革と公儀目安箱について伺った。

享保改革で都市政策や地方御用に尽力した大岡越前守忠相は、町奉行の期間が非常に長く、異例の昇進をした人物として知られており、江戸南町奉行として19年間

在職した。1751年には吉宗の葬儀を担当し、同年12月に死去するという、吉宗とともに生きた人物でもあった。

大岡忠相といえば、「名裁判官」というイメージが定着しているが、その根拠となる「大岡政談」にある物語のうちのほとんどが、実はフィクションだという。地方御用や寺社奉行の職務にも携わったことで全国に事績が残こり、中国や日本の裁判物、同僚が担当した事件などが忠相に仮託して語られ、庶民に広まったためとのことだ。

また、大岡は公儀目安箱に投函された「小石川養生所建設」にも関わっている。享保7年、町医者の小川笙船が目安箱に投函した案件を、大岡が吉宗から検討を依頼され、同年12月に開業した。

享保改革での大岡忠相の活躍から、当時の社会が市民からの提言を反映した社会であることがわかる。現代の政治改革においても、国民一人ひとりが考えた意見を反映させる必要があるとしてセミナーを締めくくった。

第７回　落語実演

2009年12月9日(水)12：00～

講師
柳家　喬太郎 師匠
（噺家）

第７回セミナーでは、噺家の柳家喬太郎師匠をお迎えし、落語の歴史について伺うとともに、落語を鑑賞した。

江戸落語は、６割は上方からの“輸入”であり、今回実演いただいた「時そば」も、もとは上方落語とのことだ。

一説によると、落語は江戸時代初期に同時発生的に生まれ、江戸では鹿野武左衛門、大阪では米沢彦八、京都では露乃五郎兵衛が始めたといわれている。もともとは、境内・辻などで趣味に近い形で小話をしたのが始まりだそうだ。

江戸の鹿野武左衛門は無実の罪で流罪となり、江戸落語は一旦幕を閉じたが、その後江戸の中期に落し噺として始められるようになった。

一方、上方落語は辻噺として発展し、道行く人々の脚を止めるために音を出すという工夫をするようになった。現在で

も、上方落語は見台を小拍子でたたいて音を出すという形で受け継がれている。
また、安楽庵策伝、御伽衆も落語の源流といわれる。

その後、初代三笑亭可楽が報酬として木戸銭をもらい始め、寄席の興業を始めたといわれており、現在の落語の原型となった。

最後に数々の名人達が十八番とした「時そば」の落語実演をもってセミナーを締めくくった。

第８回　小判の不思議

2010年1月20日(水)12：00～

講師
西脇　康氏
（早稲田大学エクステンションセンター講師・日本近世史研究者）

第8回セミナーでは、小判の品位・価値・時代等について伺った。「小判」は江戸時代特有の通貨で、文禄4年に初めて導入された。形状としては験極印を打刻した額面1両通用の金貨のことで、鍛造で楕円形に成型された薄延金であ

る。いろいろな文献に鋳造と書かれているが、実際には鍛造であり、一枚一枚手作りされていた。また、時期により質量・品位の低下がみられるが、特殊な加工により見た目は黄金色にすることができたため、極印により識別する。小判の貨幣価値を現在と比べると、天保小判であれば金1両171,250～174,500円といわれているそうだ。

一方、年収から生活費を引いた残金から考えた江戸庶民の生活は、大工は1.2両、棒手振(ぼてふり・青物売の行商人)は9.0～23.7両と、職業によって生活水準に随分違いがあったことがわかる。

テレビで見かける小判に関わる身近な疑問にも、鼠小僧が千両箱を持ち上げて逃亡することは不可能だった、包封金の開封の際「チャリーン」という音が出ることはないなどの解説をいただいた。

最後に、ご希望の方に、本物の小判の感触をあじわっていただき、セミナーを終了した。

第９回　やさしいビジネス英会話

2010年2月24日(水)12：00～

講師
大島　さくら子氏
（早稲田大学エクステンションセンター講師）

第9回セミナーでは、ビジネス英会話の講義を行っていただいた。

今回のテーマは「英作文」。まず、講師が日本語で言ったフレーズを英語に直す練習を行った。「～はどうでしたか?」と相手に尋ねる、How was ～?を使って、いくつかの作文をした後、それに対する

答えの作文をした。作文をするにも、聞き取りを行うにも、“熟語”が大切であるということで、いくつかの熟語(pay off…時間が報われる、strike a deal…交渉がまとまる等)を暗記した。発音練習も、はじめにカセットテープで、次に講師のあとについて繰り返し行った。

その後、プリント(「ネイティブ英語の空耳」のP.14～15)を使用し、a、to、lとrの違い等の聞き取りの難しい単語についてリスニング練習をした。

「目からうろこ」、「目が点になる」、「まゆつば」といった、英訳が非常に難しい用語がどのように英訳されるのかについても学んだ。

最後に、本日の総復習をして、セミナーを終了した。

第10回 首都圏の今後の鉄道整備について

2010年3月24日(水)12：00～

講師

富田　康裕 氏

（鉄道書籍編集社・株式会社クラッセ代表取締役）

第10回セミナーでは、首都圏の今後の鉄道整備についてお話をいただいた。

まず、2010年夏に開通予定の「成田スカイアクセス」について、開通の経緯を伺った。

日本は他の先進諸国に比べ、ダウンタウンから国際空港までのアクセスが悪いことから「成田新幹線構想」をすすめたが、用地買収の難航と地域住民の反対により、中止となった。一方、京成電鉄はスカイライナーの運行を始め、1973年には京成成田駅までを走行した。当時は成田空港への乗り入れがなく不便だったが、その後、成田空港駅の開設により、乗り入れが可能となった。やがて、JRでも成田エクスプレスの運行が始まった。ただ、スピード制限により、東京～成田空港間は両線とも約50分かかっていた。その点、新規開通予定のスカイアクセスは160km/hでの走行が可能であり、最速36分で東京と成田空港を結ぶことが実現した。

これに伴い、都営浅草線の東京駅接着構想がでた。八重洲口再開発に関係する案件のため、あまり進んではいないが、この構想が実現すると東京駅から成田空港、羽田空港へのアクセスが可能になる。

最後に、首都圏で進められた、もしくは進められている計画についてお聞きし、いくつかの質問について解説をいただき、今回のセミナーを終了した。

平成21年10月～平成22年3月の観光協会の活動

中央区観光協会50周年記念事業フィナーレ

■実施時期：平成21年11月1日（日）

■実施会場：晴海トリトンスクエアー

中央区観光写真コンクール

予　選

■実施時期：平成21年11月16日（月）

応募者156名／応募作品567点

本　選

■実施時期：平成21年11月25日（水）

入賞作品59点が選ばれた

表彰式

■実施時期：平成21年12月25日（金）

三越日本橋本店において行われ、当日より翌年1月1日まで同店において入賞作品を展示

中央区観光検定

応募者数338名／受検者数283名

合格者49名

■実施時期：平成22年2月6日（土）

■実施会場：ロイヤルパークホテル、
コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

東京マラソンEXPO 2010

■実施時期：平成22年2月25日（木）～27日（土）

■実施会場：東京ビッグサイト

観光協会・東京観光財団の共同出展

観光マップ等の配布、会員3店舗の物販

■すべてのお問合せ先
中央区観光協会
TEL.03-3546-6525
WEBサイト http://www.chuo-kanko.or.jp/

● 平成21年10月～
平成22年3月

工団連の動き

＊ハイテクセンター・ランチセミナーについては、10～13頁に講義内容を掲載

■新年初顔合せ会
平成22年1月13日(水)　銀座ブロッサム ジャスミン　47名出席
来賓挨拶：矢田中央区長、石島中央区議会議長

●常任理事会
第2回　平成22年3月4日(木)
議題　平成22年度定期総会について
平成22年度事業計画(案)について

●企画委員会
第2回　平成22年2月10日(水)
議題　平成22年度事業計画（案）について
平成22年度宿泊研修について
平成22年度ランチセミナーについて
平成21年度中小企業工業関係者表彰式について

●広報委員会
第2回　平成22年1月20日(水)
工団連会報(第26号)の企画・編集

平成22年3月4日 常任理事会

平成22年2月10日 企画委員会

●各種講座・研修

ハイテクセンター・ランチセミナー
ハイテクセンター会議室　34名受講
第5回　平成21年10月28日(水)「世界同時不況とこれからの日本経済」
講師　経済ジャーナリスト　大西　良雄
第6回　平成21年11月25日(水)「享保改革と公儀目安箱」
講師　早稲田大学講師 谷口　眞子
第7回　平成21年12月9日(水)「落語実演」
講師　落語家　柳家　喬太郎
第8回　平成22年1月20日(水)「小判の不思議」
講師　早稲田大学エクステンションセンター講師　西脇　康
第9回　平成22年2月24日(水)「やさしいビジネス英会話」
講師　早稲田大学エクステンションセンター講師　大島さくら子
第10回　平成22年3月24日(水)「首都圏の今後の鉄道整備について」
講師　鉄道書籍編集者　(株)クラッセ代表取締役　富田　康裕

経営セミナー
区役所8階大会議室
第7回　平成21年11月24日(火)「新型インフルエンザ対策セミナー」
～事業者・職場における事業継続計画の最前線～
講師　(株)三菱総合研究所　社会安全マネージメントグループリーダー　木根原　良樹
異業種交流会
平成21年11月26日(木)
中央区経営相談員　倉辺　喜一郎
第8回　平成21年12月21日(月)「人を動かす話し方」
～ＮＬＰ心理学の実践的な話術・スキルを学ぶ～
講師　デジタルハリウッド大学院　客員教授　二階堂忠春、田中千尋
第9回　平成22年2月25日(木)「売れる！手描きＰＯＰマスターセミナー」
～物言わぬセールスマンをつくろう！～
講師　中小企業診断士　福本　伸夫
異業種交流会
平成22年2月26日(金)
エキスパートリンク(株)　石田 恵介
第10回　平成22年3月17日(水)「社長のための決算書の見方・経営への活かし方」
～自社の経営状態を把握して次の手を考える～
講師　藤間公認会計士税理士事務所　藤森 康行

新春経済講演会
平成22年1月27日(水)　区役所8階大会議室　160名受講
テーマ「逆境に強いリーダー戦国の名将大いに語る」
講　師　講談師・講談協会会長　六代目　宝井 馬琴

●事　業
(1) 中央区中小企業工業関係者表彰
① 表彰審査会
平成22年1月18日（月） 区役所8階第5会議室
② 表　彰　式
平成22年2月18日（木） 銀座ブロッサム マーガレット
事 業 主　5名（就任20年以上）
従 業 員　27名（20年以上：14名・勤続10年～19年：13名）
(2)「工団連会報」の発行
② 第25号 平成21年10月発行

商工業融資制度

◆申込資格　区内の同一場所で同一事業（東京信用保証協会の保証対象業種）を１年以上営み、都民税（法人）・特別区民税（個人）を完納していること。法人は区内に登記されていること（類似商号の場合を除く）

◆融資相談に際して…

融資相談の際には、最近２期分の決算書または確定申告書２年分（いずれも原本）決算後３カ月以上経過している場合、最近までの月次試算表も持参してください。

＊ご利用の際には電話予約を！

２週間先までの相談日時が予約できます。ご利用の際には電話予約をしてください。

★お問合せ先
区民部商工観光課相談融資係
電話（３５４６）５３３３

中央区商工業融資一覧（抜粋）

〈注〉東京信用保証協会の無担保保証枠は、保証合計残高が 8,000 万円までですのでご注意ください
：下表の「区民」とは、代表者が中央区民のことをいいます。〕

制度名		資金使途	区分 / 限度額	融資利率	利子補給利率（ ）内の利率は、優遇利率適用の場合	借受人負担利率	返済期間	保証料補助
継続支援資金融資	運転資金融資	運転資金	一　般　1,800 万円 区　民　2,000 万円	年2.2%	年：1.1%（1.2%）	年：1.1%（1.0%）	7 年以内（据置６カ月を含む）	3 分の 2
	限度額差額融資		借受時利用額と限度額との差額					
	小規模企業資金融資		一　般　1,200 万円 区　民　1,400 万円		年：1.7%（1.8%）	年：0.5%（0.4%）		小規模企業資金全　額
	設備資金融資	設備資金	一　般　2,600 万円 区　民　3,000 万円		年：1.1%（1.2%）	年：1.1%（1.0%）	9 年以内（据置６カ月を含む）	3 分の 2
			公害・三品・エコ　3,000 万円		年：1.7%(1.8%)	年 0.5%(0.4%)		公害・三品・エコ / 全額
	小規模企業資金融資		一　般　1,200 万円 区　民　1,400 万円		年：1.7%（1.8%）	年：0.5%（0.4%）		小規模企業資金全　額
	年末特別資金融資	運転資金	300 万円		年：1.5%（1.6%）	年：0.7%（0.6%）	11 カ月（据置１カ月を含む）	全　額
	小規模企業特例緊急運転資金融資	運転資金	300 万円		年：2.1%	年：0.1%	2 年以内（据置３カ月を含む）	全　額
小口資金融資	運転資金融資／限度額差額融資	運転資金	運転資金 設備資金 経営改善支援資金 1,250 万円 小規模企業資金 850 万円		年：1.1%（1.2%） 公害防止・三品・エコ 年：1.7%（1.8%） 小規模企業： 年：1.7%（1.8%）	年：1.1%（1.0%） 公害防止・三品・エコ 年：0.5%（0.4%） 小規模企業： 年：0.5%（0.4%）	運転資金：7年以内 設備資金：9 年以内 （据置６カ月を含む）	運転資金融資 設備資金融資： 3 分の 2 公害・三品・エコ 小規模企業資金 全　額
	小規模企業資金融資							
	設備資金融資	設備資金						
	小規模企業資金融資							
	経営改善支援資金融資／限度額差額融資	運転資金および設備資金			年：1.7%（1.8%）	年：0.5%（0.4%）	7 年以内（据置６カ月を含む）	一般　3 分の 2 区民　全　額
	緊急景気対策特別資金融資	運転資金および設備資金	緊急景気対策特別資金 1,000 万円		年：2.1%	年：0.1%	7 年以内（据置６カ月を含む）	全　額
応援資金融資	経営改善支援資金融資	運転資金および設備資金	一　般　1,300 万円 区　民　1,500 万円		年：1.7%（1.8%）	年：0.5%（0.4%）	7 年以内（据置６カ月を含む）	一般　3 分の 2 区民　全　額
	限度額差額融資		借受時利用額と限度額との差額					
	緊急景気対策特別資金融資	運転資金および設備資金	1,000 万円		年：2.1%	年：0.1%	7 年以内（据置６カ月を含む）	全　額
	区融資一本化資金融資	運転資金	2,000 万円 （融資残額と新規資金 500 万円の合計額の範囲内）		年：1.1%	年：1.1%	7 年以内（据置６カ月を含む）	な　し

※**優遇利率適用の範囲**：**工団連・区商連・観光協会**・町会・自治会・防災区民組織に加入している事業所および区、町会・自治会・防災区民組織と災害時支援協定を締結している 事業所、ならびに高齢者雇用の促進に貢献している事業所など。
※小規模企業資金融資の複数利用はできません。　※小口資金融資は、国の全国統一保証制度を適用するもの。

★**『出張経営相談』をご利用ください★**　区役所の開庁時間に来庁することが困難な事業主の方に対して、中小企業診断士を派遣して経営相談をお受けする《出張経営相談》を実施しています。どうぞご利用ください。

※青の色帯の部分は平成22年4月1日から同年9月30日まで実施。

中央区 工団連／区商連のHP
www.chuo-shokogyo.jp

中央区 工団連／区商連の
ホームページ（大江戸商工サイト）を
ぜひご活用ください。
会報の最近号も見られます！
www.chuo-shokogyo.jp

工団連／区商連ホームページ（大江戸商工サイト）へは
中央区観光協会 HPトップページのバナーからも行けます▶